

高羽直樹富士プレス社長が記者会見で業況・課題等説明 6年後に売上100億円目標、メキシコは22年に生産倍増



アルコニックスグループでは、「商社機能と製造業のシナジー」創出を図るべく、製造業を中心としたM&Aを推進している。これまで、製造セグメントにおいて8社のM&Aを実施、その後の追加投資もあって各社ともに順調推移している。このほど、アルコニックスが2017年4月に完全子会社化した富士プレス（資本金52百万円、愛知県大府市）の高羽直樹社長（写真）が記者会見し、同社の業況並びに7月にスタートしたメキシコ子会社であるフジ・アルコニックス・メキシコの概要等について、所信を述べた。

今年創業60周年、19年度売上83億円・6年後に100億円目標

富士プレスは自動車用プレス加工部品（電磁バルブ部品、中小ブラケット類クランプ等）および金型の製造・販売を行っており、1959年9月に設立、今月に創業60周年を迎えた。国内製造拠点は本社工場のほか、本社近くの横根第1～第3工場、北九州製作所（北九州市八幡西区）の3拠点を有している。プレス金型の設計・製作からプレス加工・組付け検査までの一貫生産が可能で、主要顧客であるデンソーからはプロミネントサプライヤーの認定を受けており、高い評価を得ている。

2019年3月期の国内売上高は83億2千万円で、売上の52.1%がデンソー向け、29.8%がデンソーグループ向け、6.5%がトヨタグループ向けとなっている。自動車業界は、米中貿易摩擦による中国経済の減速などから先行き不透明感も漂っているが、「足元では前年並みで推移している。秋以降、少し停滞局面があるとは思いますが、プレスによる自動車部品には高いポテンシャルがあるので、ゆくゆくは回復してい

（次ページへつづく）

くだろう」と見ている。中期的な目標としては、「6年計画で売上100億円を目指す」方針。富士プレスの製品には熱交用のブラケット類などの“一般部品”とパワートレイン向け部品などの“高精度部品”があり、その売上比率は半々となっているが、この比率はそのままに、精密深絞りや钣金鍛造を組み合わせた“切削加工に近いプレス加工技術”を武器に事業規模拡大を図る。

自動車産業では電動化の動きが加速しているが、これについては「電動化が進展すれば、使われる部品の構成も変化すると思うが、それは当社にとってはチャンスでもある。ただ、カーシェアリングの普及などで自動車自体の販売が減少した場合には大きな影響を受けると思うので、これからは自動車以外の分野も視野に入れておかないといけない」としている。

7月にメキシコ子会社が新体制でスタート、22年目途に生産倍増

メキシコ子会社のフジ・アルコニックス・メキシコは、富士プレスと日邦産業の合併会社であったFNAメカトロニクス・メキシコの事業のうち、自動車用精密金属プレス事業を譲り受け、今年7月に新体制でスタートした。資本金は7,600万メキシコペソで、出資比率は富士プレス80%、アルコニックス20%。現地のデンソーグループ向けに、電動VCT（連続可変バルブタイミング機構）向け部品やインジェクター（燃料噴射装置）向け部品などをメインターゲットにして販売しており、2019年度の売上規模は約630万米ドル。今後も、自動車部品製造の集積地であるメキシコを拠点に、メキシコ国内以外の北米・中南米市場への事業拡大も推進する。

メキシコでは米国の保護主義政策により、関税などの懸念材料もあるが、北米の自動車生産自体は堅調に推移すると見られている。フジ・アルコニックス・メキシコでも「2022年度を目途に現在の2倍くらいの生産を計画、その後も年率数%ずつ伸びていくイメージ」を立ており、売上についても2021年度に1,680万ドルを計画している。増産に

(次ページへつづく)

向けて、約1億円を投じてプレス1台を導入する検討を進めており、増設後のプレス台数は12台となる。

“オーナー企業”から“普通の会社”へ、“全員野球”スタイルで経営

高羽社長は、社長に就任してからの1年間を振り返り、「富士プレスに来てまずやらなければいけなかったことは、安藤正敏会長（前社長）からも言われたことだが、“オーナー企業”から“普通の会社”にすることだった」と語る。「オーナーの強いカリスマ性で成長してきたが、アルコニックグループの一員となり、これからは普通の株式会社としてやっていけないといけない。私は豪速球も変化球も投げられないので、コーナーを丁寧について打たせて守る、“全員野球”のスタイルで経営していきたい」としている。そのために「社員の意識を変えるのが大きな仕事で、全員が目標と現状のギャップを共有し、やるべきことを全員で考えるようにしていきたい」。

なお、今後4～5年で取り組む中期経営方針としては、①自己資本比率の更なる増強、②真のプロミネントサプライヤーとして常にお客様の期待に応えられるものづくり力の獲得、③アルコニックグループの一員にふさわしい企業体制への変革、④海外拠点の自立に向けたオペレーションの強化の4点を掲げている。

【高羽直樹（たかは・なおき）氏の略歴】1960年5月10日生、三重県出身。1984年3月慶應義塾大学工学部機械工学科卒業、4月日本電装（現デンソー）入社。2007年1月熱機器生産開発部工機企画室室長。2008年1月工機部部長。2014年1月安全衛生環境部部長。2017年10月富士プレス出向常務執行役員／技術担当・社長補佐。2018年7月富士プレス代表取締役社長。

デンソー時代は、通算で約30年にわたり社内向け設備の設計・製作を担う工機部に在籍。趣味は骨董品収集。中でも大正時代のガラス製花瓶が好みで、「大正時代に作られた花瓶のポップなデザインが好き」。現在のコレクション数は約200本で、「いろいろな経験をしながら、最近では“目利き”になってきた」とのこと。